

市民環境部会 会議録

（出席者） 委 員：10 名
事 務 局：4 名（戦略部会員：3 名、政策推進課：1 名）
ア ド バ イ ザ ー：1 名
ファシリテーター：1 名

（会議の内容）

1. はじめに

資料 1 に基づき、第 4 回まちづくり市民会議（第 3 回部会）の会議録について内容を確認し、公表に当たっての承認を得ました。

資料 2 に基づき、第 5 回まちづくり市民会議の検討の進め方について事務局から説明しました。

2. グループワーク

第 4 回まちづくり市民会議（第 3 回部会）で抽出された「市民環境分野の課題」の解決策をテーマに、2 グループに分かれて K J 法によるグループワークを行いました。

■メンバー

	グループ 1	グループ 2
委員	河合（利）委員、川口委員、 鈴木（吉）委員、鈴木（裕）委員	中村委員、清水委員、金原委員、諸橋委員、 長谷部委員
事務局	渡邊、朽名、江口（J P 総研）	杉浦、中川

3. アドバイザー総括（岩崎アドバイザー）

ワークショップ形式のものに参加すると感じるが、日本はここ 100 年ほど変わっていない。100 年前というと日露戦争後で、地方改良運動があった。今日と同じように、地方が解体の危機に面していた。そこで何をしたのかと言えば、自治ということが強調されており、うまくいっている模範町村や優良町村を紹介していた。ところが、あるところでうまくいっていても、自分のところではうまくいかないといったことが起こってきた。つまり、担い手不足である。戦後の民主主義で教育も変わったが、なかなか人材が育ってきていない。そういう中に私たちは生きている。

やはり、コミュニティの自立ということが言われる。コミュニティエンパワーメントとかコミュニティガバナンスなどのカタカナ語が流行っているが、いかに担い手をつくるのかに尽きると思う。これは 100 年前と同じである。どうしたら活動する人たちを増やすことができるのかということだと改めて感じた。

8 年ほど前に、鹿児島県鹿屋市の柳谷集落へ勉強に行った。リーダーの豊重さんから話を伺うと、人口 300 人のその集落は、行政や補助金に頼らず、9 割の住民が地域づくりに参加する。私はそこで「大きくてはできない、小ささの可能性」を感じた。大きいことはいいことだと言われ

ていたこともあったが、そういった時代ではなくなると痛感した。そこで実際にやっていたことは、一人ひとりを承認するということだった。お互いに名前を呼び合い、高齢者の半生を宝物と認め、集落にあるお宝館に名前や写真入りで顕彰する。そうやって、一人ひとりが大切な存在だとお互いに確認し合うのである。私はそういったことが、非常に重要だと感じた。集落にとって、自分は大切だという存在意義や存在価値を改めて確認することで、やる気が出てくる。

もう一つは、子どもの重要性である。柳谷集落が動いたきっかけとなったのは、高校生であった。90年代半ばに、集落には13人の高校生がいた。野球選手のイチローを見たいと思っていた高校生たちに、豊重さんがカライモ栽培をさせ、その収益金でイチロー選手を見に行った。それだけではなく、その収益を独居老人宅に緊急通報装置の取り付けに当てた。高齢者たちはとても喜び、感動した。高校生たちはその姿を見て、自分たちが集落にとっていかに大切な存在かということに気がつき、原動力となっていったそうである。

今日、プレゼンを聞いて、柳谷集落で大事なことは、この田原市でも同じではないかと思った。一言でいえば、関心を持つということである。そのためには知る必要がある。知らせるには、情報の伝達やPR、組織の検証など行政の働きが重要だと思う。それから、繋げる働きも重要である。繋がりにくい人や団体もいるかもしれないが、繋がりたい、知っていれば繋がるのという人や団体もたくさんいるはずである。そこをいかに繋いでいくかが、行政の重要な役割だと感じた。

今後、学びのまちづくりが重要になるのではないかと思う。滋賀県のある小学校では、「探検、発見、ほっとけん」をスローガンに掲げ、校区探検をやっている。校区を歩いて探検し、気づくことができる。発見したほっとけないことは、活動に結び付く。子どもの柔軟な感性で自分が動こうということになる。これを大人にも繋げることができるのではないかと思う。

子どもが動けば大人が動くという発表もあった。プログラムをつくっていくことがまちづくりになるような、田原発信のまちづくりができたらいと思う。自然や人、文化が組み合わせり、繋がっていく。そういう広がりの中に田原が存在しているといった学びを「田原学」として立ち上げ、市民協働に繋がっていくプログラムをつくっていくことが重要だと思った。

4. その他

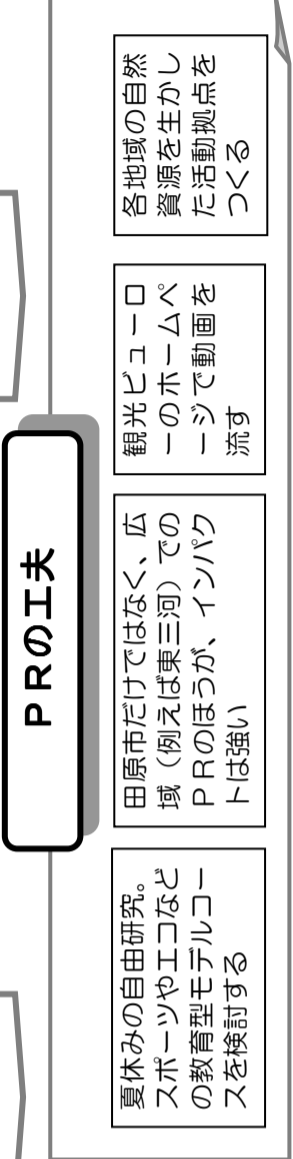
次回開催日程は、6月28日（木）19：00からに決定しました。各委員に、ふり返りシートを配布し、会議後1週間を期限に、提出をお願いしました。

グループ1

市民

地域

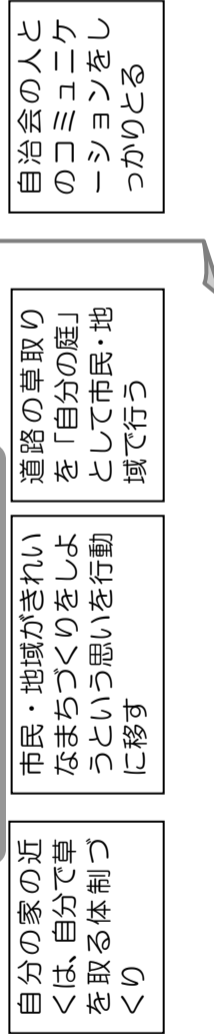
行政



課題 8

田原市の自然環境や特徴(農業・景観・エコ)を活かした活性化策が必要

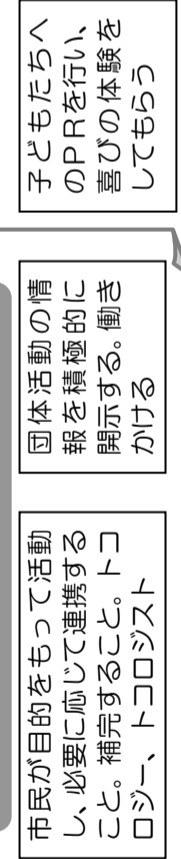
自分たちで動く



課題 4

道路脇に雑草が多く、見苦しい

活動をみせる！つながる！



課題 2

ボランティア、NPOなどの活動団体が育っていない・連携できていない

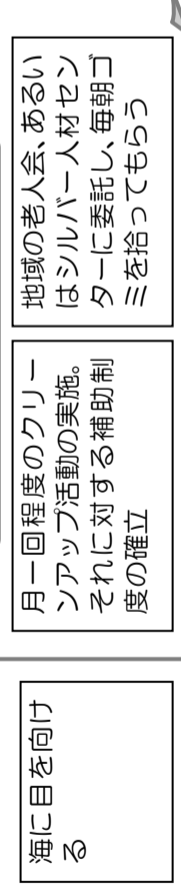
課題 3

コミュニティ組織の担い手が不足している。担い手として期待される団塊世代や女性の活用は可能か

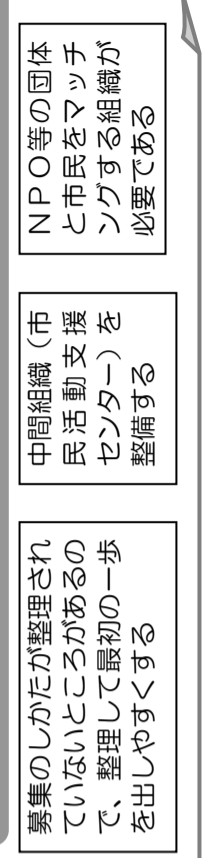
課題 5, 6

海の水質浄化が進んでない。海をきれいにするための意識が浸透していない。海岸・砂浜、河川などにゴミが多い。マナーが守られていない、海岸に漂着ゴミがある

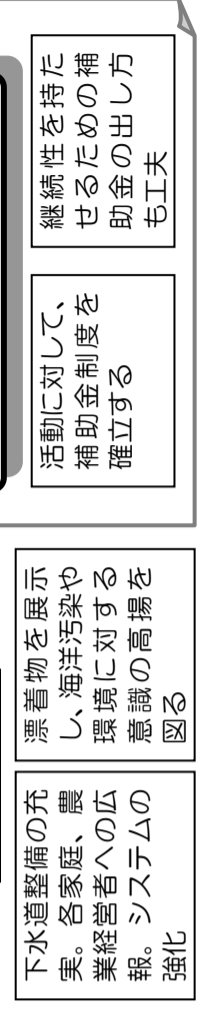
地域のゴミ拾い



ボランティア・NPO市民活動の支援体制



補助金のあり方



課題 1

市民が行政を動かす。協働のかたちをつくらだす

課題 7

イノシシ肉で加工品販売や料理開発などで地域振興を図る

課題 7

市民・共政 共存できるシステムの構築。野良犬・猫の命を救うシステムを

課題 10

炭生館の処理で生まれる熱をエネルギー転換する技術を導入

課題 11

地域・行政。地域の体制と行政の生活支援

課題 12

市民。その人の意思、知識と行動。支えるのは市民

市民

一歩前へ

公募に対して前向きに応募する

参加を求められて自分の条件がダメなら、友人知人等に勧めてみるなど一歩進んだ対応

男性への男女共同参画。働き方の工夫(ライフワークバランス)

課題 12

女性が政策方針決定の場や仕事に参加・参画する機会が十分でない。

地域

慣習・慣行の打開

学ぶ会へ進んで参加する

無関心、関わりたいくない人どう向き合わせるか

若いも若きも全ての人を結集する

男性の男女共同参画。悩みを話すところは？

自分らしさを磨きたい。男性への男女共同参画

議員報告会は、全員男だった。女性の参加を

男性、女性の意識を変える

行政

育つ

情報をホームページで見ることができる

審議会委員会等に関して、指針に30%以上おおくなど条件をつくる

知らせることが市民を動かす



意識の高揚

海の汚染について知る機会を得る

畜産農家への意識改革。川や水路へ流さない！し尿処理等施設の活用

興味がないところが問題。海はつながっている。今、皆が注目する福島の海を知る

市民は、公のところがはすべ行政にやらせようと思っいる

課題 5

海の水質浄化が進んでない。海をきれいにするための意識が浸透していない。

めばえ

見守り隊を編成し評価しよう

公共心

地域の悪臭。見守り委員は形式的なものに感じる

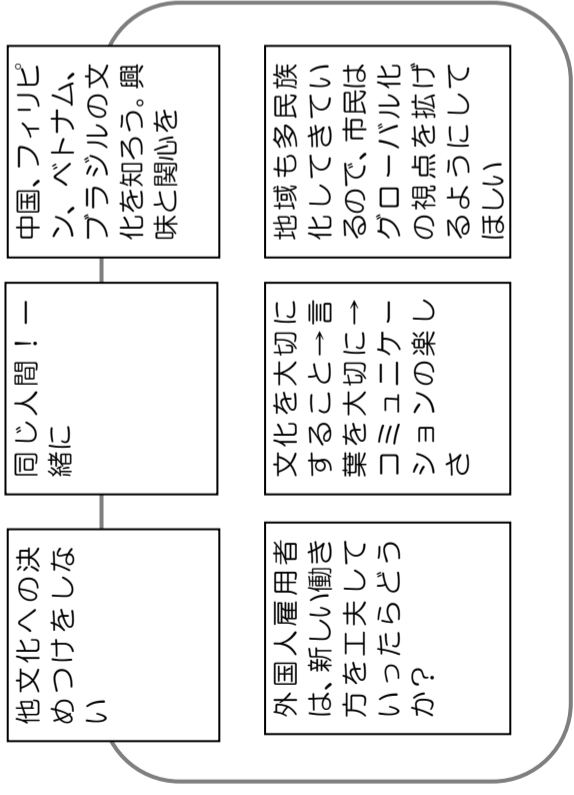
強いサポート

畜産農家が悪臭を出さないよう、実態がわかるようもっとう見回ってほしい

川の水質調査を行ってほしい

悪臭の現場に行き注意し、写真を撮る

市民

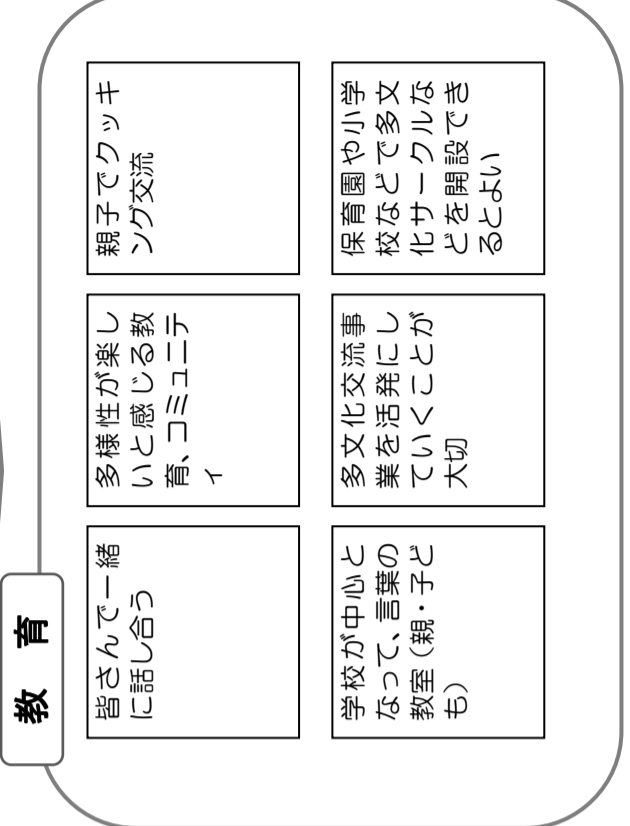


課題 11
外国人市民との共生の
ための支援が不足して
いる。

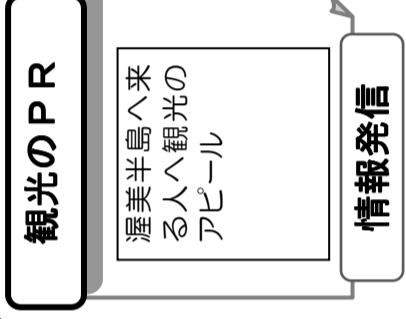
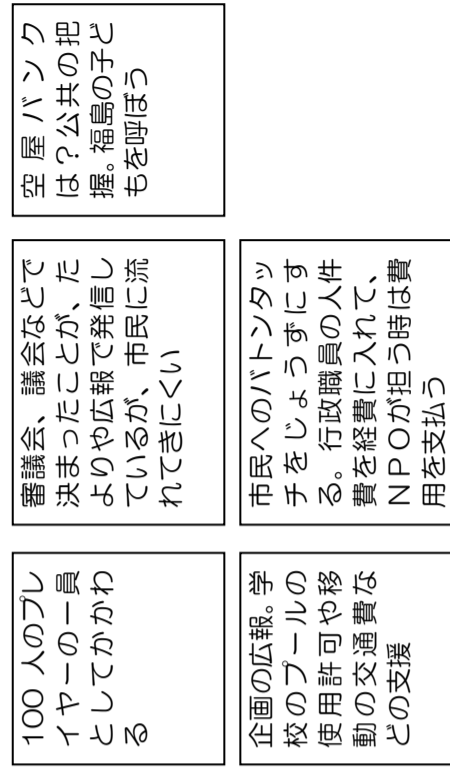
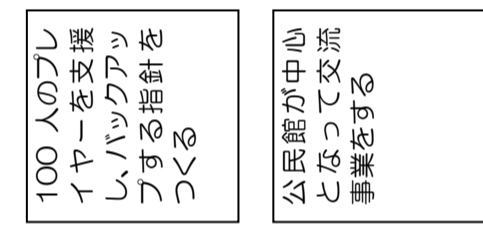
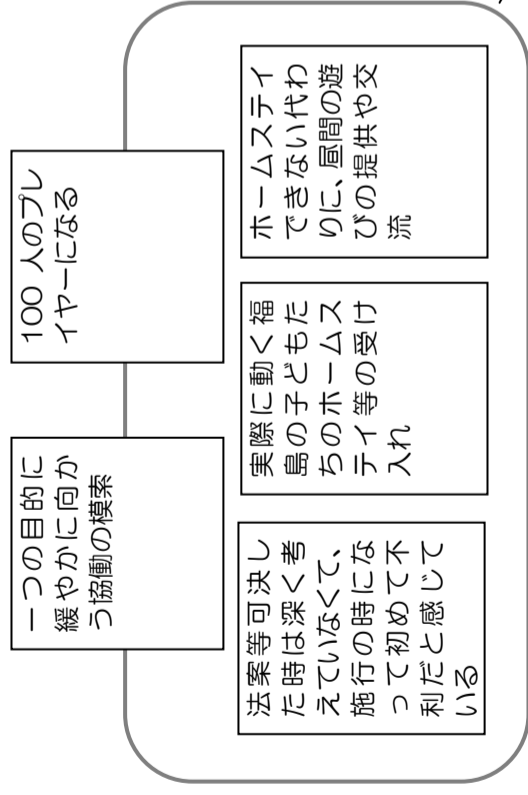
地域



行政



課題 1
田原市がめざす「協働」
の在り方や方向性がみ
えにくい。



課題 8
田原市の自然環境や
特徴(農業・観光・エコ)
を活かした活性化策が
必要。

